

第2章 御代田町の現況と課題

2.1 御代田町の概要

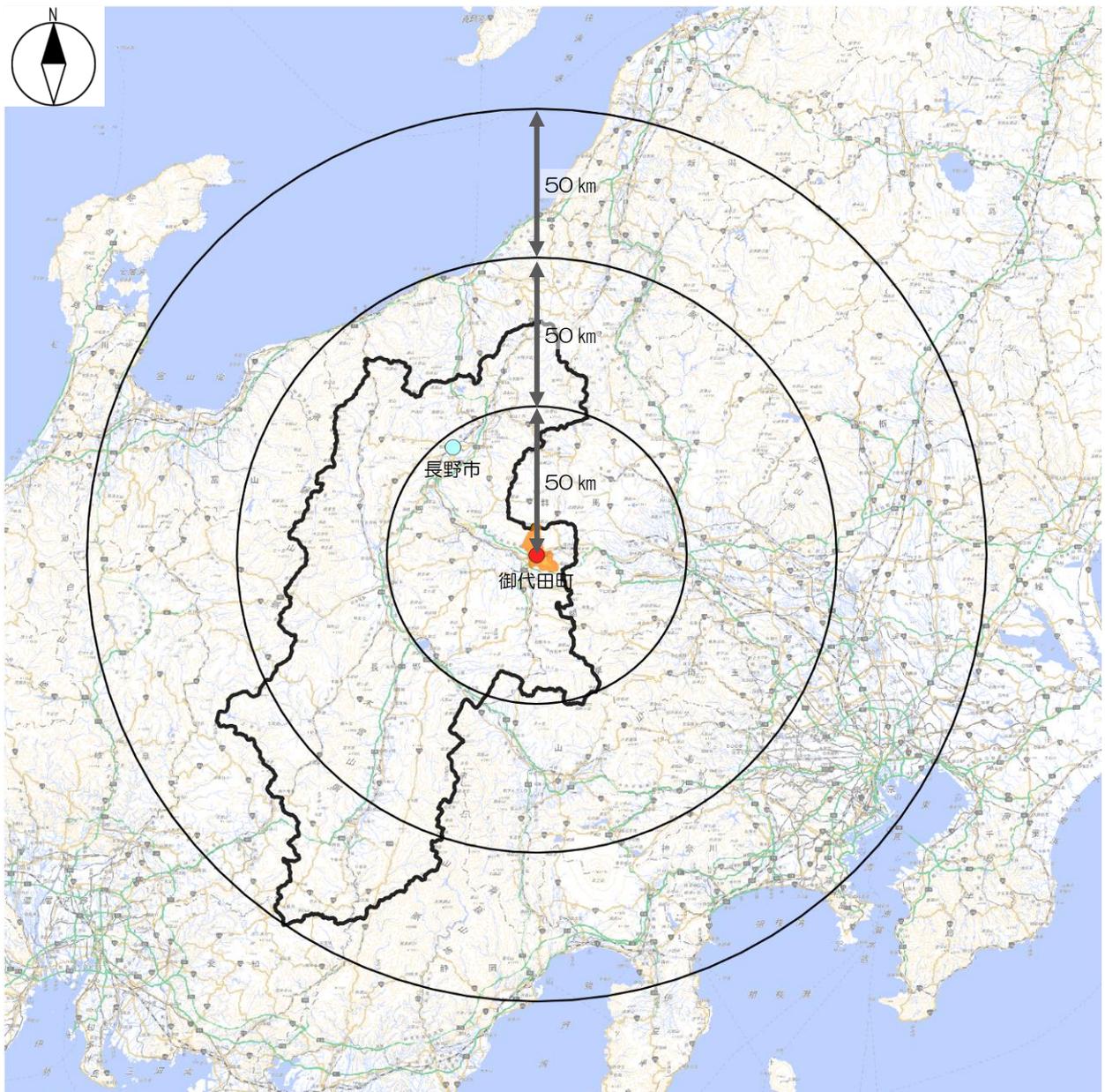
(1) 位置・地勢等

① 位置・気候

当町は長野県東部に位置し、東は軽井沢町、南は佐久市、西は小諸市に隣接しています。北側に雄大な浅間山の裾野が広がり、南側には森泉・平尾山系が連なる緑豊かなまちです。

内陸性の気候で、年間降水量は1,000mm前後と少ないものの、気温の年較差は大きく、冬の寒さは厳しいです（2月の平均気温：-3.6℃（出典：平均気温ナビ））。

また、上信越自動車道及び北陸新幹線の整備により、首都圏をはじめとする遠方からのアクセスがよく、国道18号や浅間サンラインなどの幹線道路も整備されています。

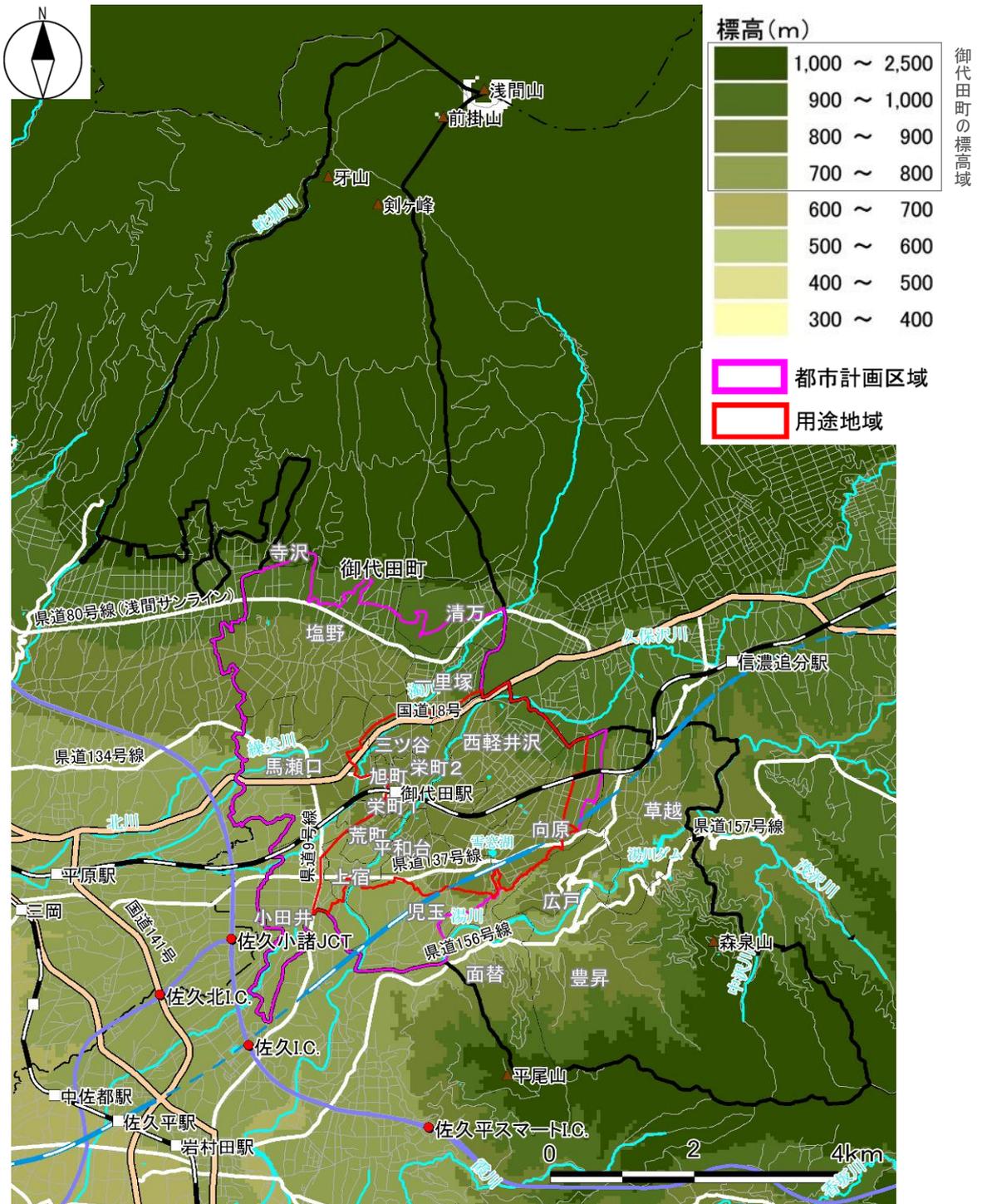


出典：国土地理院

図 御代田町の位置

② 地形

当町の標高は約700～2,500mに位置しており、生活圏は約700～1,000mに広がっています。北端には今なお活動を続けている浅間山が存在し、今後も災害を伴う噴火等が考えられます。過去2,000年間に3回の大噴火を起こしたとされ、天仁元年（1108年）の大規模噴火では追分火砕流が現在の当町中心部まで到達したと推定されています。現在は噴煙を上げてはいるものの、活動は静かです。



出典：国土数値情報

図 御代田町及びその周辺部の地形

地形的には南西に緩やかに傾斜しており、町の南側を流れる湯川沿いには川の浸食作用でできた田切地形が顕著にみられます。

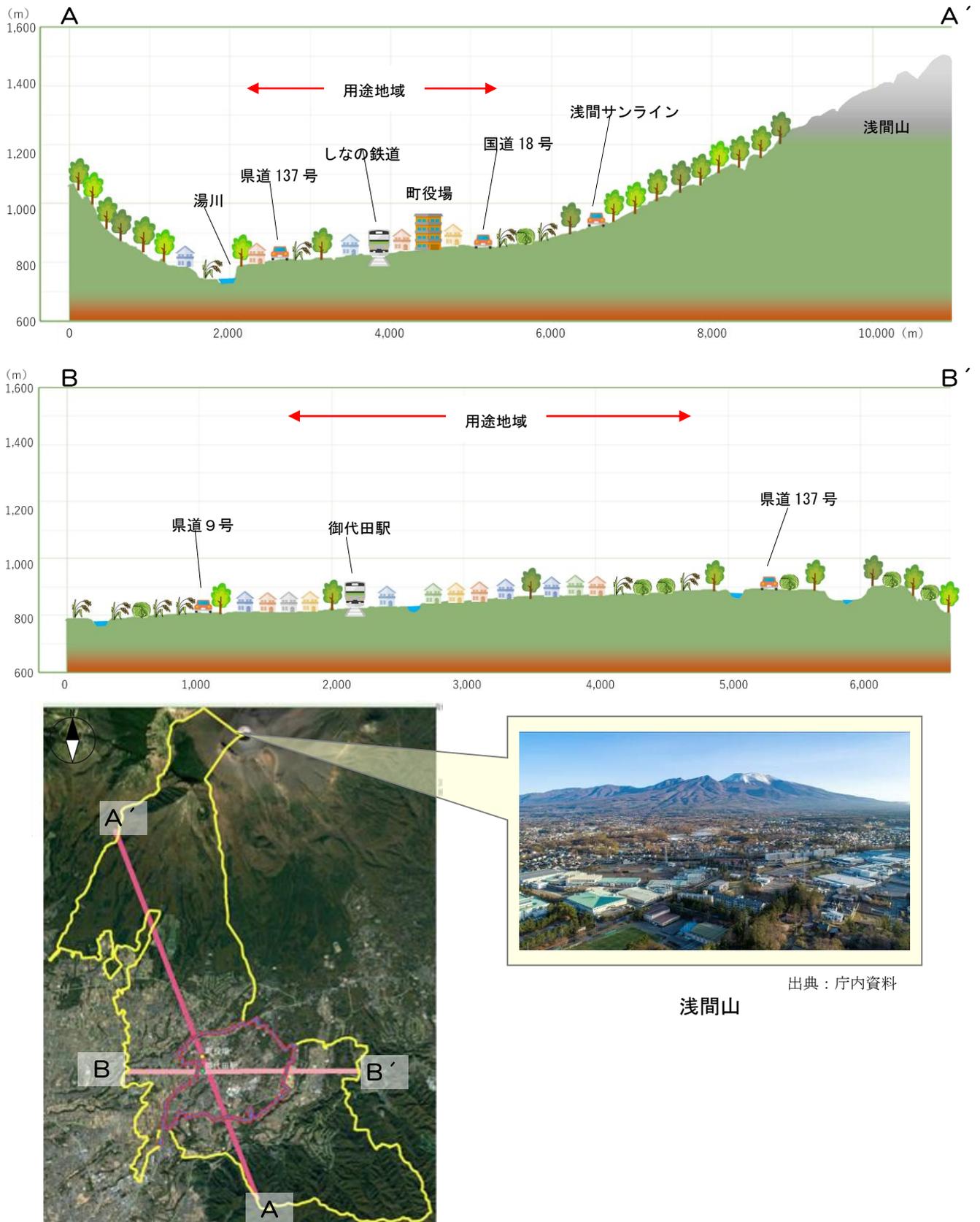
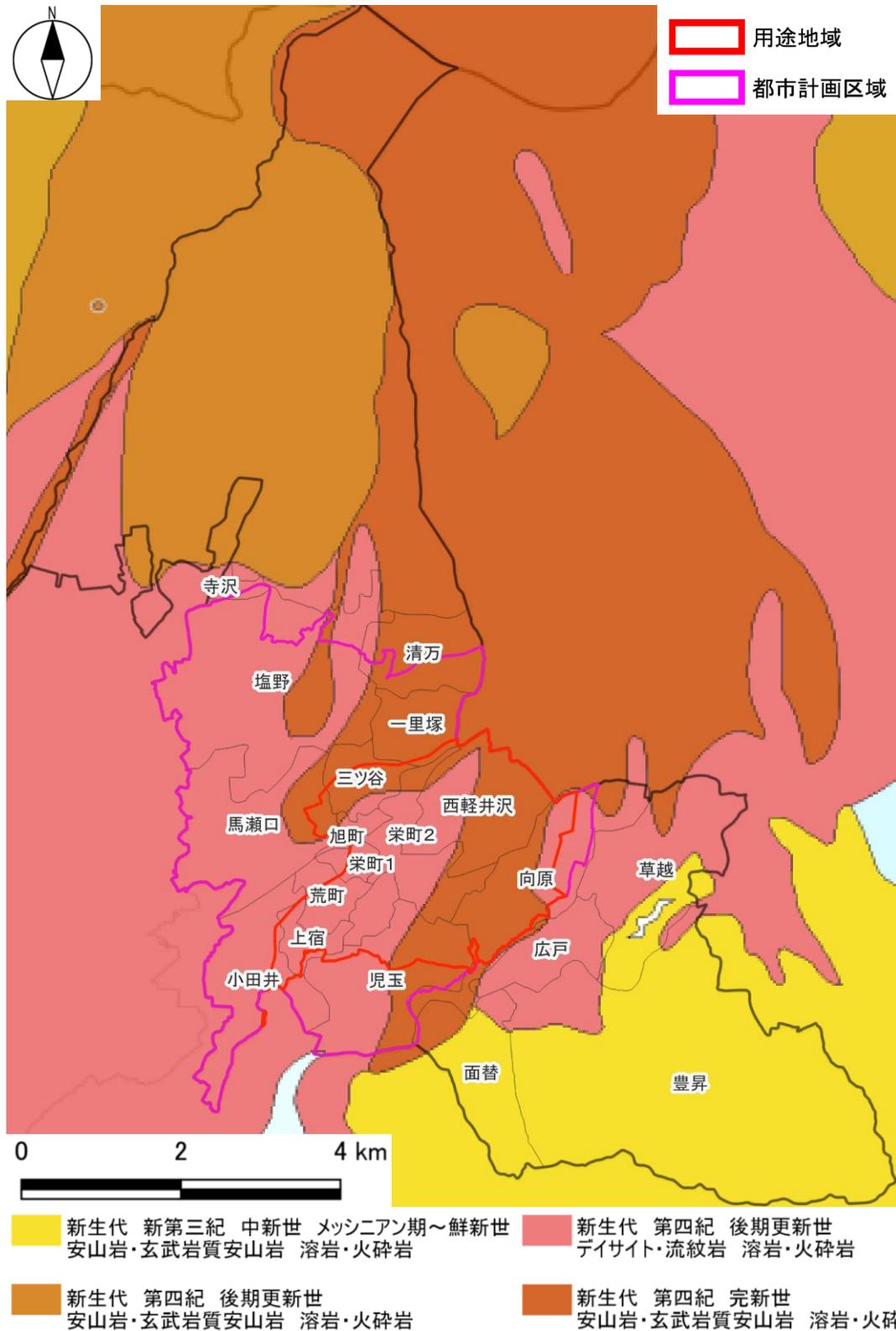


図 御代田町及びその周辺部の地形（断面図）

出典：国土地理院

③ 地質

当町は、町域全体が浅間山の噴火による噴出物が堆積してできた山麓地形上にあります。地質は軽石や火山灰からなるエリアが大半を占め、降雨が地下に浸透しやすく、水田にはあまり適していません。

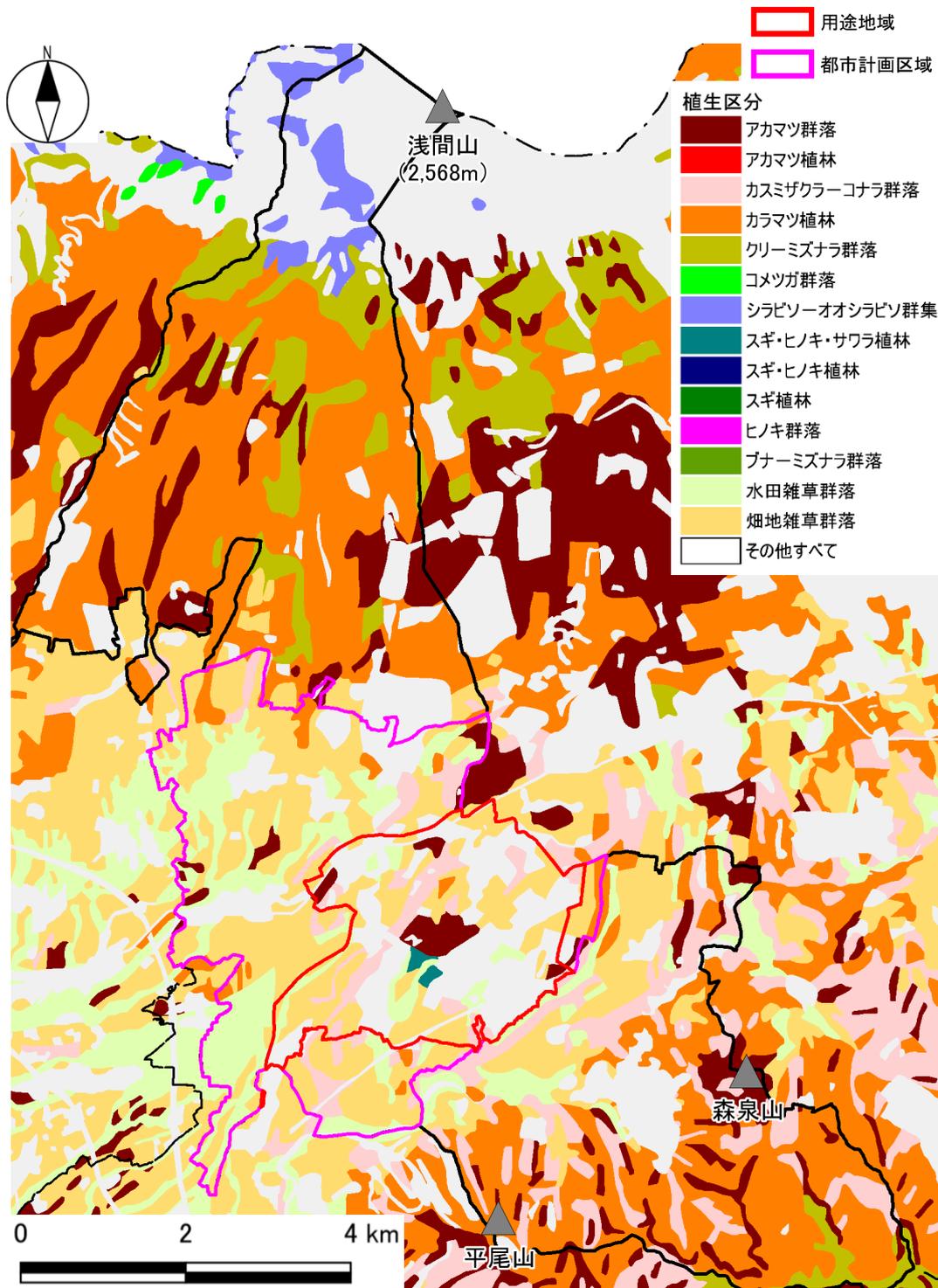


出典：地質図 Navi

図 御代田町及びその周辺部の地質

④ 植生

浅間山の標高の高いエリア（標高2,000m地帯、通称“天狗の露地”）にはシラビソ等の自然林が広がっています。浅間山麓や森泉山、平尾山にはアカマツ群落やカラマツ植林が広く分布しています。用途地域内にはカスミザクラ・コナラ群落、アカマツ群落が分布しています。農地はレタス栽培などの畑地面積が町土の約12%を占め、水田面積は約6%を占めています。



出典：第5回自然環境保全基礎調査

図 御代田町及びその周辺部の植生

(2) 町の成り立ち

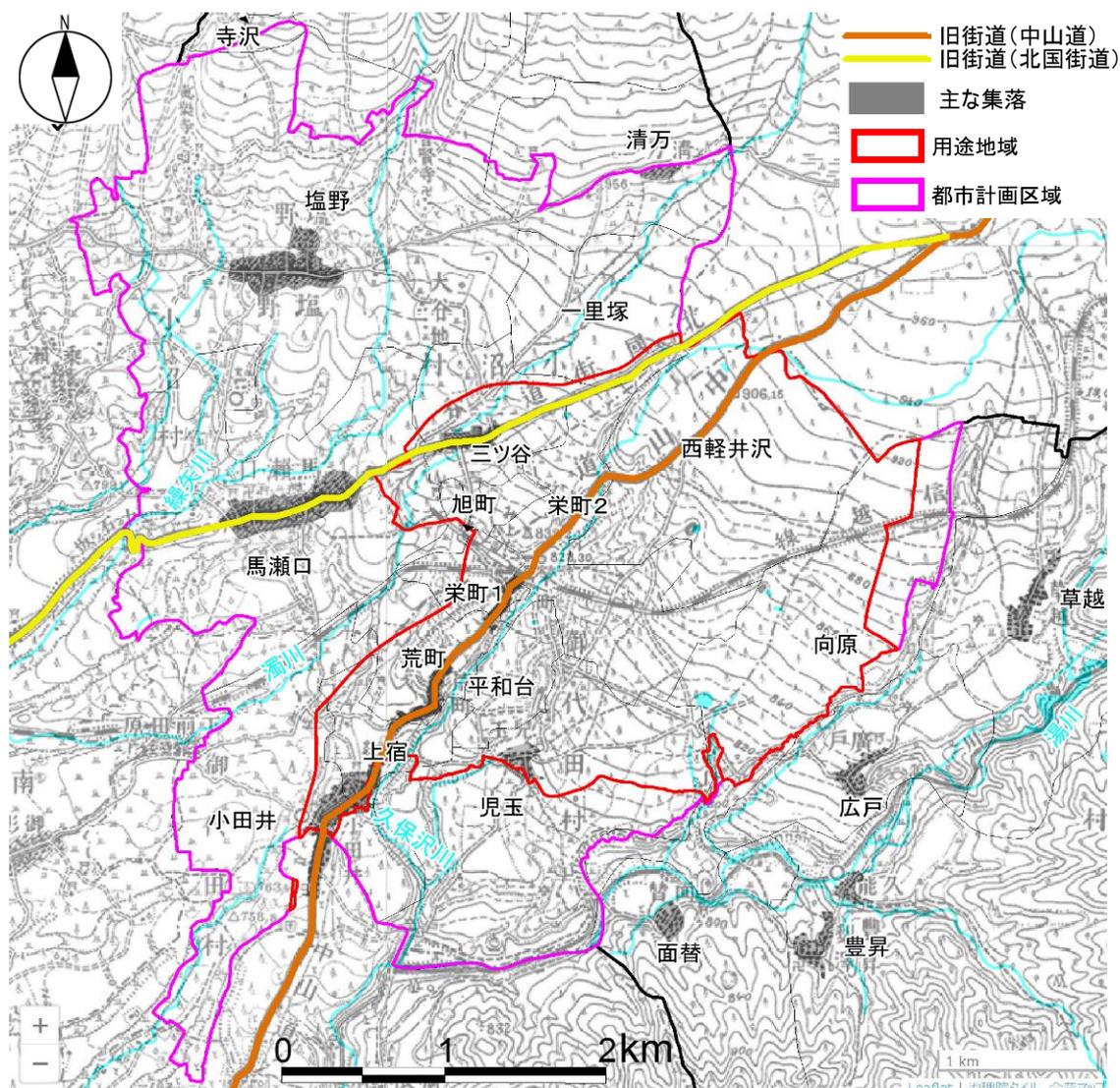
当町は、地形的にも社会的にも旧3村（次ページ図参照）を中心とした3つの地区に分けられます。

北部の旧小沼村を中心とする地域（小沼地区）は、浅間火山の堆積物の斜面に広がる国有林野を背に、東西に走る道路沿いに塩野区、寺沢区、清万区があり、一段下がった旧北国街道沿いに馬瀬口区、三ツ谷区、一里塚区があります。

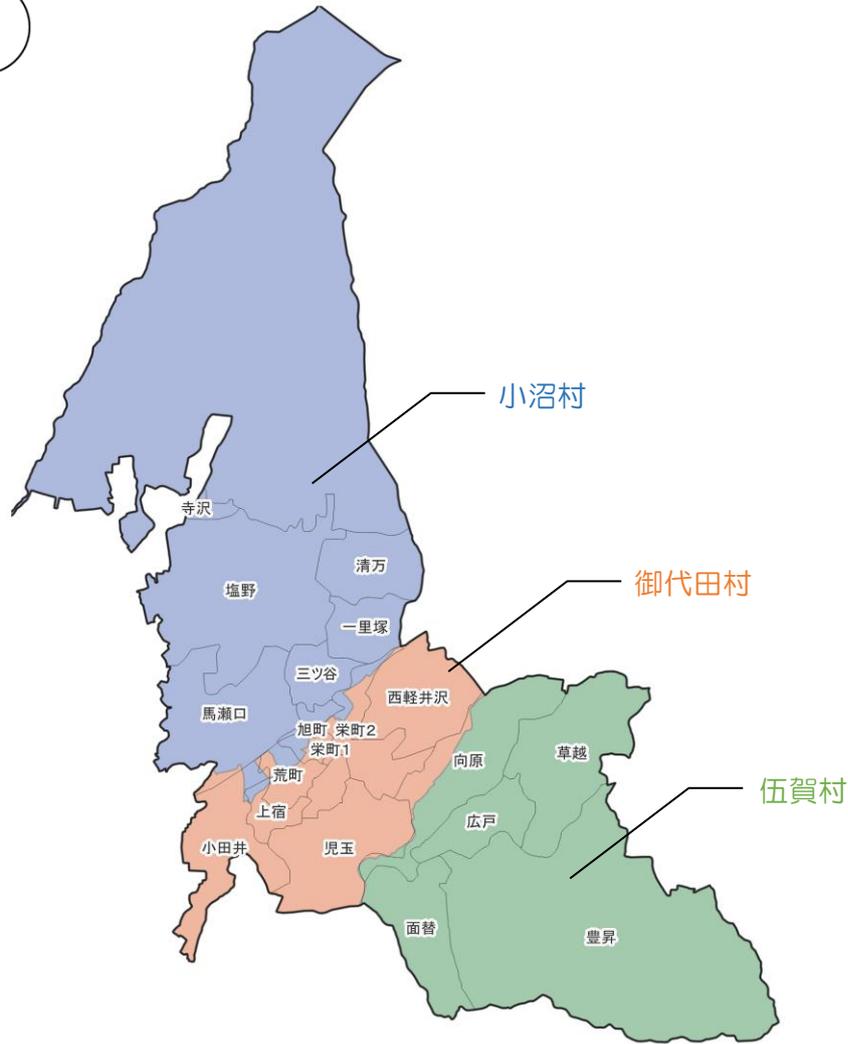
中央部の南傾斜の平坦部が旧御代田村を中心とする地域（御代田地区）です。旧中山道沿いに荒町区、上宿区、小田井区があり、近代に新田として開発された児玉区、信越線（現在はしなの鉄道）御代田駅の設置とともに発達した栄町区や旭町区、第二次世界大戦末期から戦後の食糧増産のために開拓地として出発した西軽井沢区、住宅団地の造成事業として建設された平和台区があります。

南部の旧伍賀村を中心とする地域（伍賀地区）は、湯川の渓谷の両側に広がります。南側には豊昇区、そのやや下流に面替区、北岸の台地上には広戸区、草越区が立地しています。また、第二次世界大戦中からの開拓事業や戦後、別荘地造成として開発された向原区があります。

以上の3つの村が、昭和31（1956）年9月に合併して、「御代田町」が誕生しました。

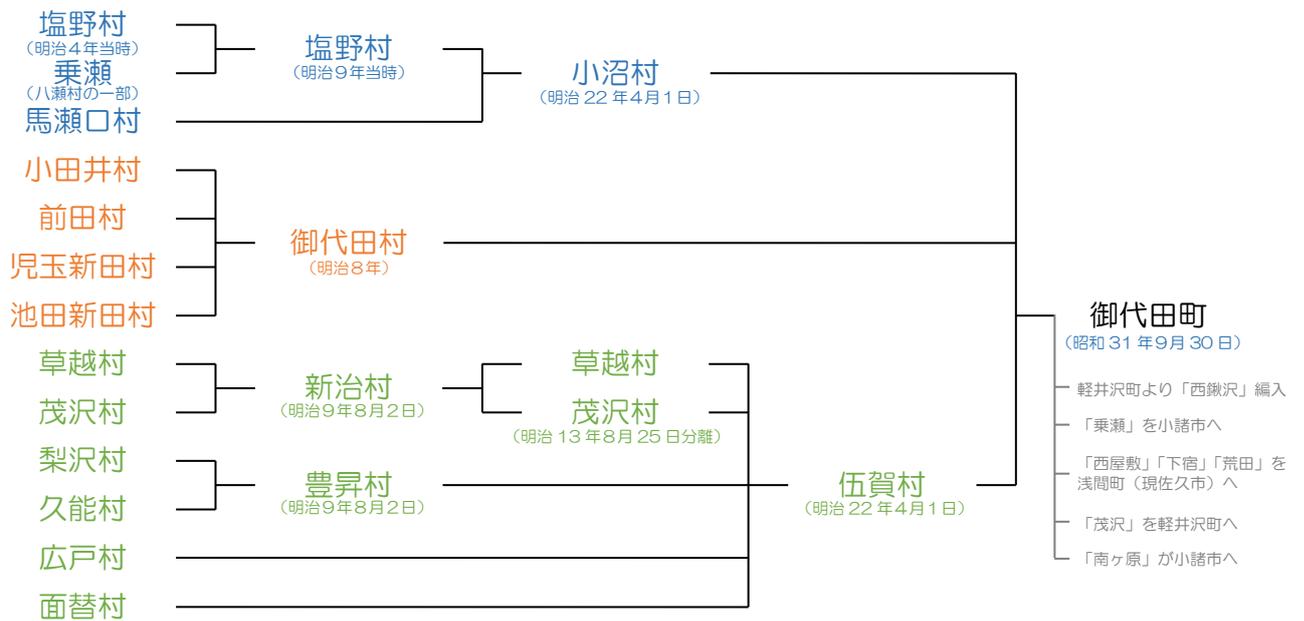


出典：時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」より作成
図 御代田町の過去の集落分布（1912年の地形図）



出典：国土数値情報

図 旧町村界と地区



出典：みよた学

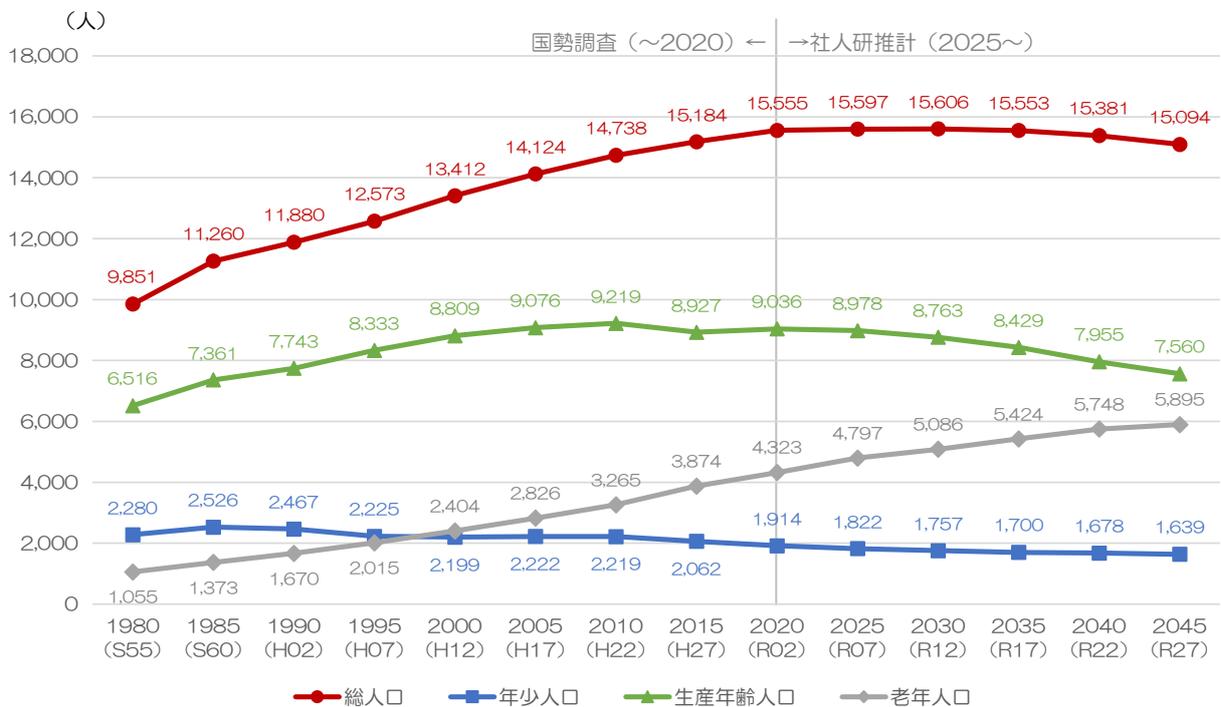
図 御代田町の合併の経過

2.2 御代田町の現状

(1) 人口動態

① 総人口・年齢3区分人口

当町の総人口は増加傾向が続いていますが国立社会保障・人権問題研究所（以下「社人研」という）の推計では令和12年（2030年）をピークに緩やかな減少に転じる予測となっています。年齢区分（年少・生産年齢・老年）別にみると、年少人口は昭和60年（1985年）をピークに減少傾向にあり、今後も減少していく予測となっており、老年人口は急激な増加が続いており、今後も増加していく予測となっています。生産年齢人口は平成22年（2010年）までは増加傾向が続いていましたが、その後若干減少傾向にあり、今後は減少が続いていく予測となっています。このように現在は総人口が増加傾向にありますが、少子高齢化は進行しており、特に高齢化は今後急速に進んでいくものと予測されています。

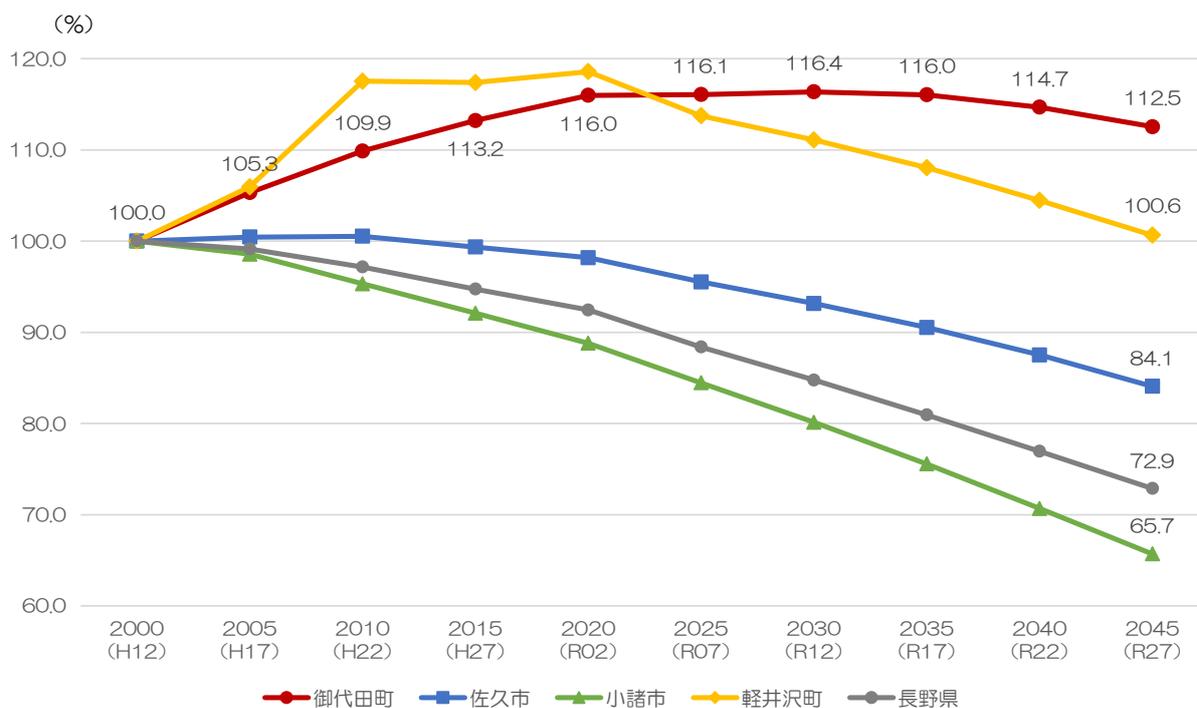


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 人口動態と推計（1980年－2045年）

② 人口増減率

平成12年（2000年）の人口を基準とした人口増減率を長野県全体及び近隣の市町村と比較すると、令和2年（2020年）時点では、県全体、佐久市、小諸市が減少傾向にあるなか、当町と軽井沢町は増加傾向にあります。社人研の予測では、軽井沢町は今後人口が減少に転じる予測となっていますが、当町は令和12年（2030年）までは緩やかに増加し、その後の減少も県全体、他市町に比べて緩やかに減少していく予測となっています。



※2000年を100%とした場合

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 人口増減率（2000年－2045年）

表 御代田町及び隣接自治体の将来推計人口（2015年－2045年）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
御代田町 (住民基本台帳)	15,543	15,887	16,363	16,839	17,315	17,791	18,267
御代田町	15,184	15,555	15,567	15,606	15,563▲	15,381▲	15,094▲
佐久市	99,368	98,199▲	95,542▲	93,173▲	90,540▲	87,538▲	84,090▲
小諸市	42,512	40,991▲	38,986▲	36,987▲	34,881▲	32,624▲	30,326▲
軽井沢町	18,994	19,188	18,403▲	17,975▲	17,484▲	16,903▲	16,286▲

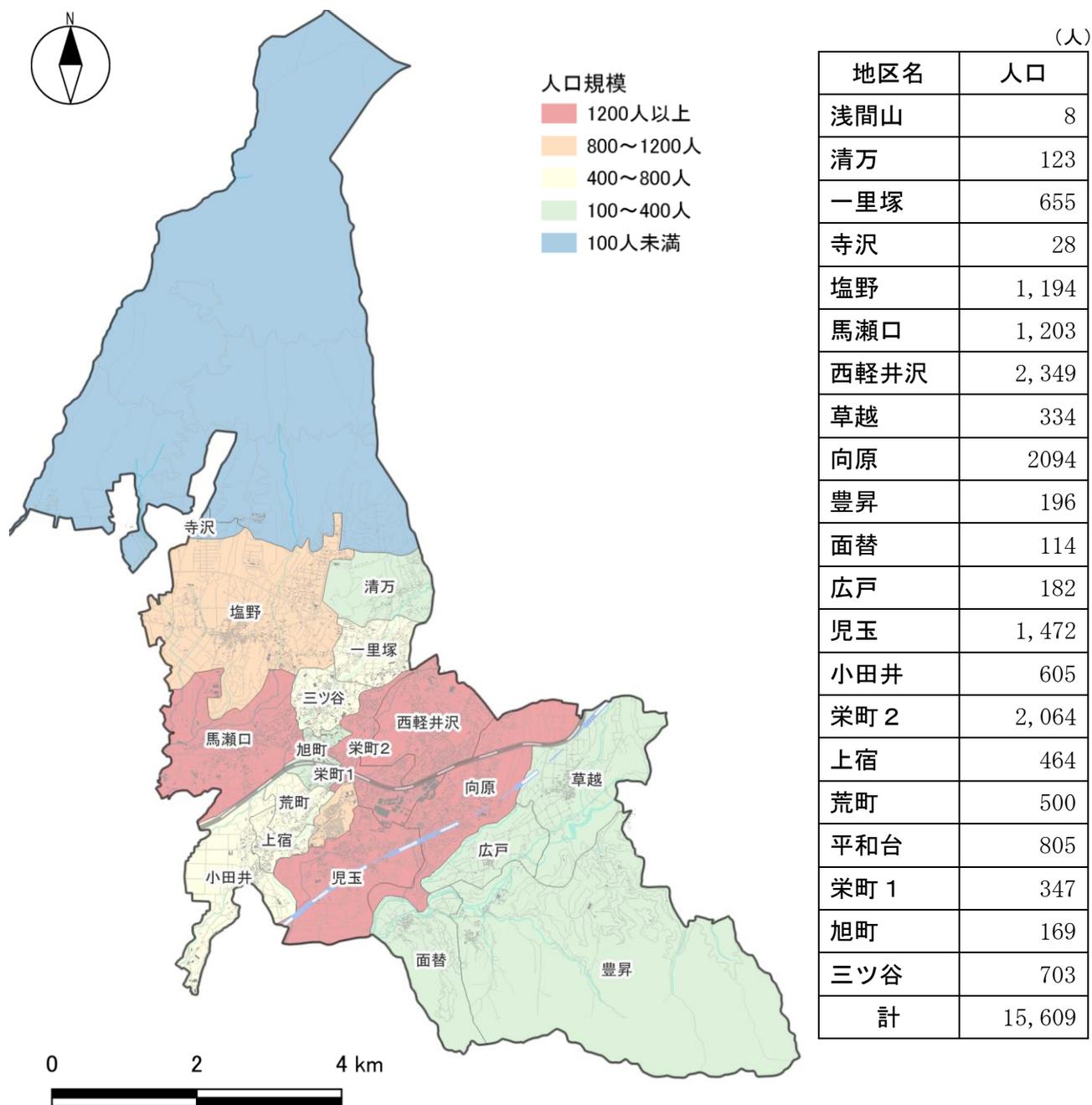
出典：国立社会保障・人口問題研究所、御代田町住民基本台帳

※2015年、2020年は国勢調査による実績値、2025年以降は推計値（▲：5年前比で減）

※最上段の2015年、2020年は御代田町住民基本台帳の実績値、2025年以降は、住民基本台帳の実績値からの推計値

(2) 地区別人口

当町の人口を地区別にみると、御代田地区に人口が集中しており、特に西軽井沢区、向原区、栄町2区、児玉区で人口が多くなっています。小沼地区は馬瀬口区、塩野区を中心に御代田地区に次ぐ人口となっています。伍賀地区は3地区のなかで顕著に人口が少なく、草越区、豊昇区、広戸区、面替区の4区すべてが100～400人と少なくなっています。



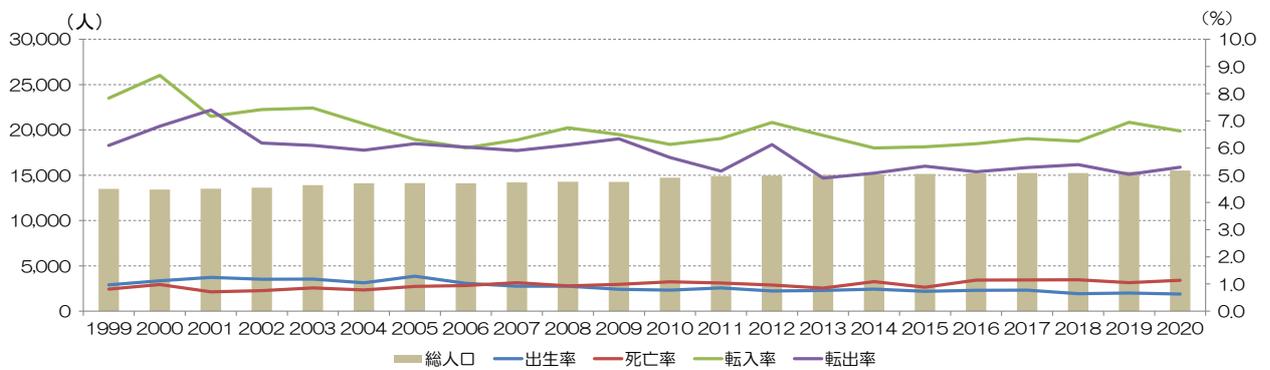
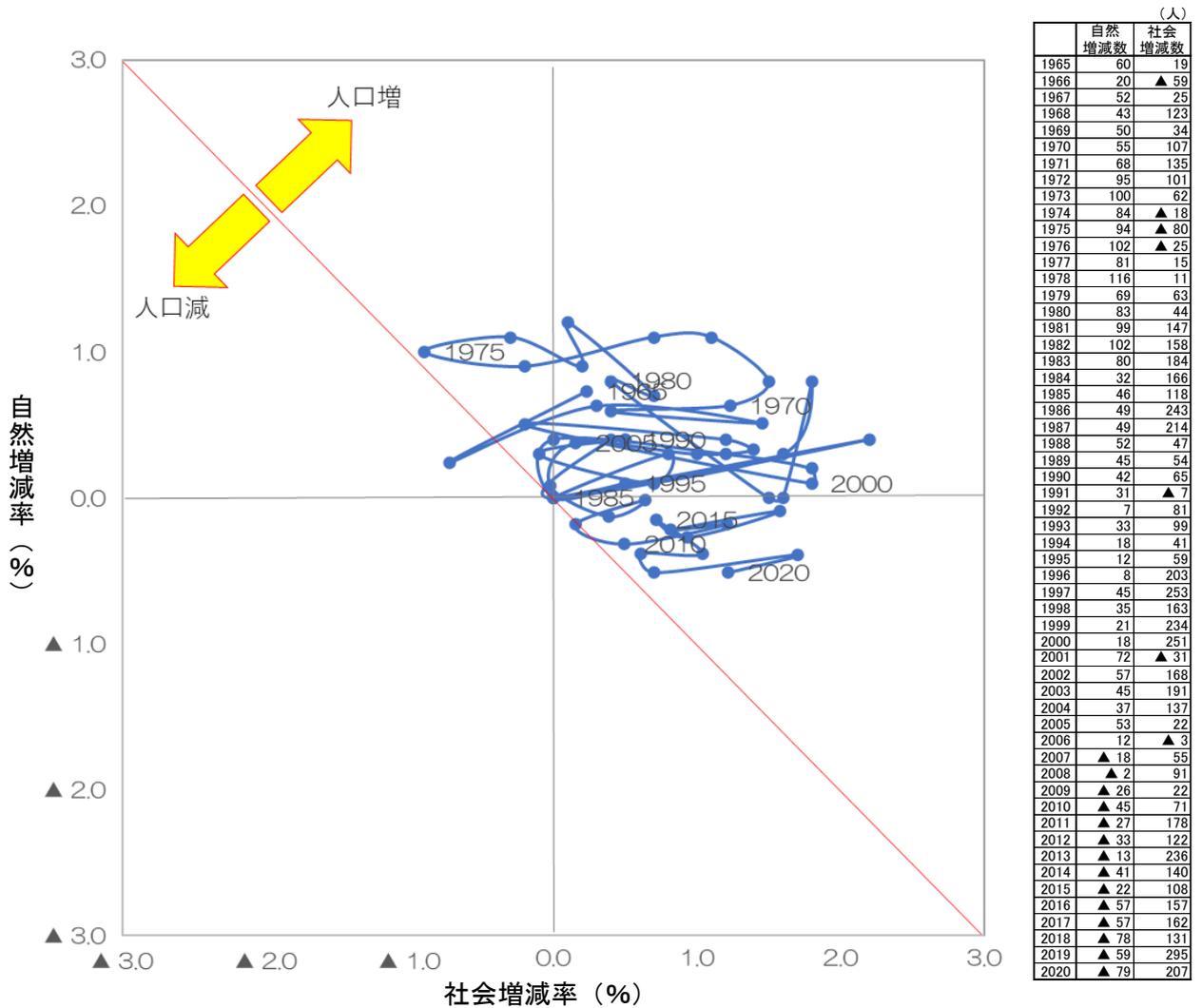
出典：国立社会保障・人口問題研究所

図・表 地区別人口※（2020年）

※2015（H27）年の国勢調査を基にした推計値

(3) 社会増減と自然増減の推移

昭和40年（1965年）から平成18年（2006年）にかけては、一部（1966年、1974～1976年、1991年、2001年、2006年は社会減）を除き、概ね自然増・社会増の状態が続いていましたが、平成19年（2007年）に自然減に転じてからは、自然減・社会増の状態が続いています。



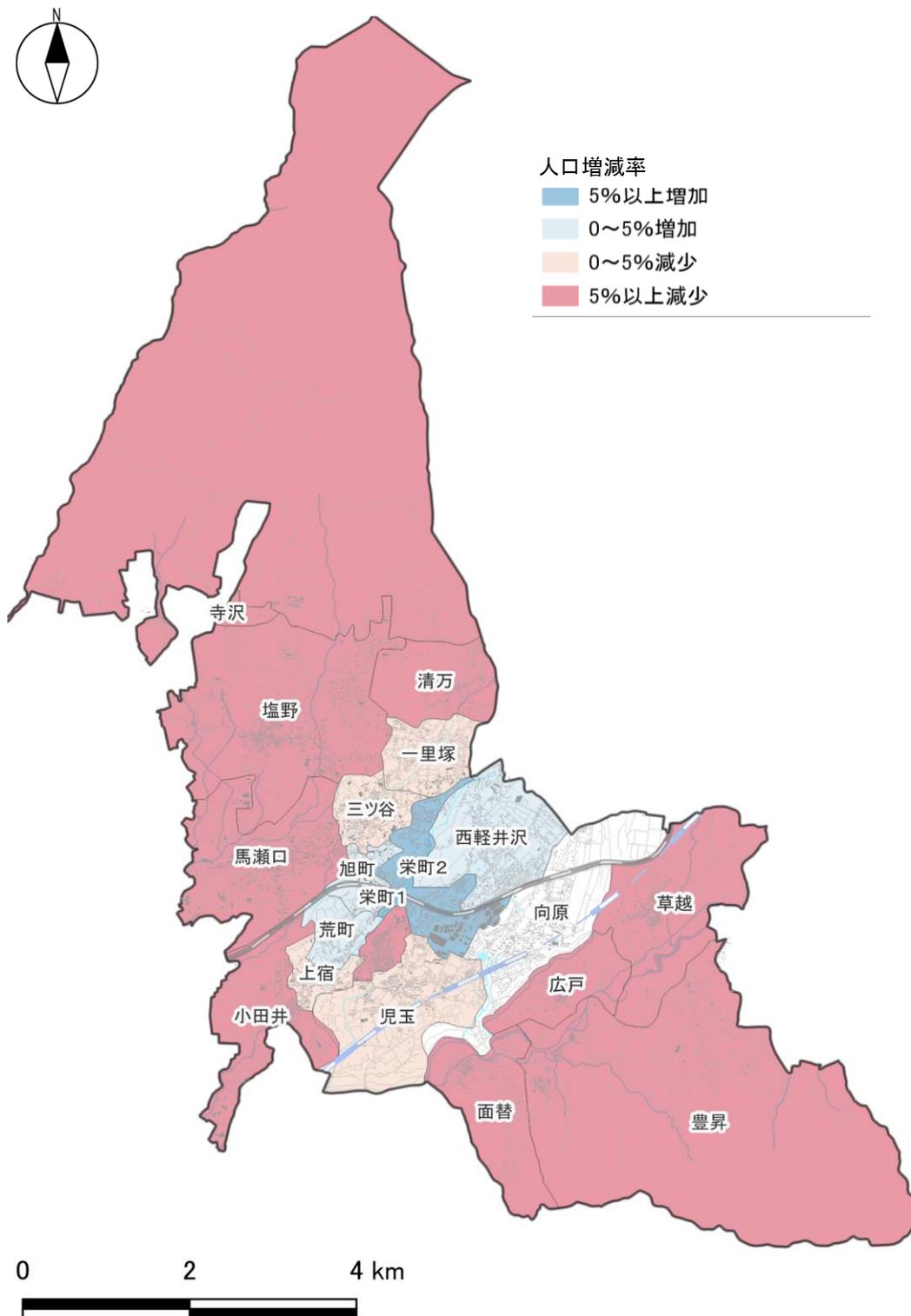
出典：毎月人口異動調査（長野県）

図 社会増減と自然増減の推移

(4) 地理的人口動態

① 地区別の将来人口増減率

今後の人口増減の予測を地区別にみると、御代田地区で人口が増加していく一方で、小沼地区、伍賀地区は顕著に減少していく予測となっています。御代田地区で人口が増加する予測となっているのは、向原区、栄町2区、西軽井沢区、旭町区、栄町1区、荒町区となっており、軽井沢町側である東側に集中しています。



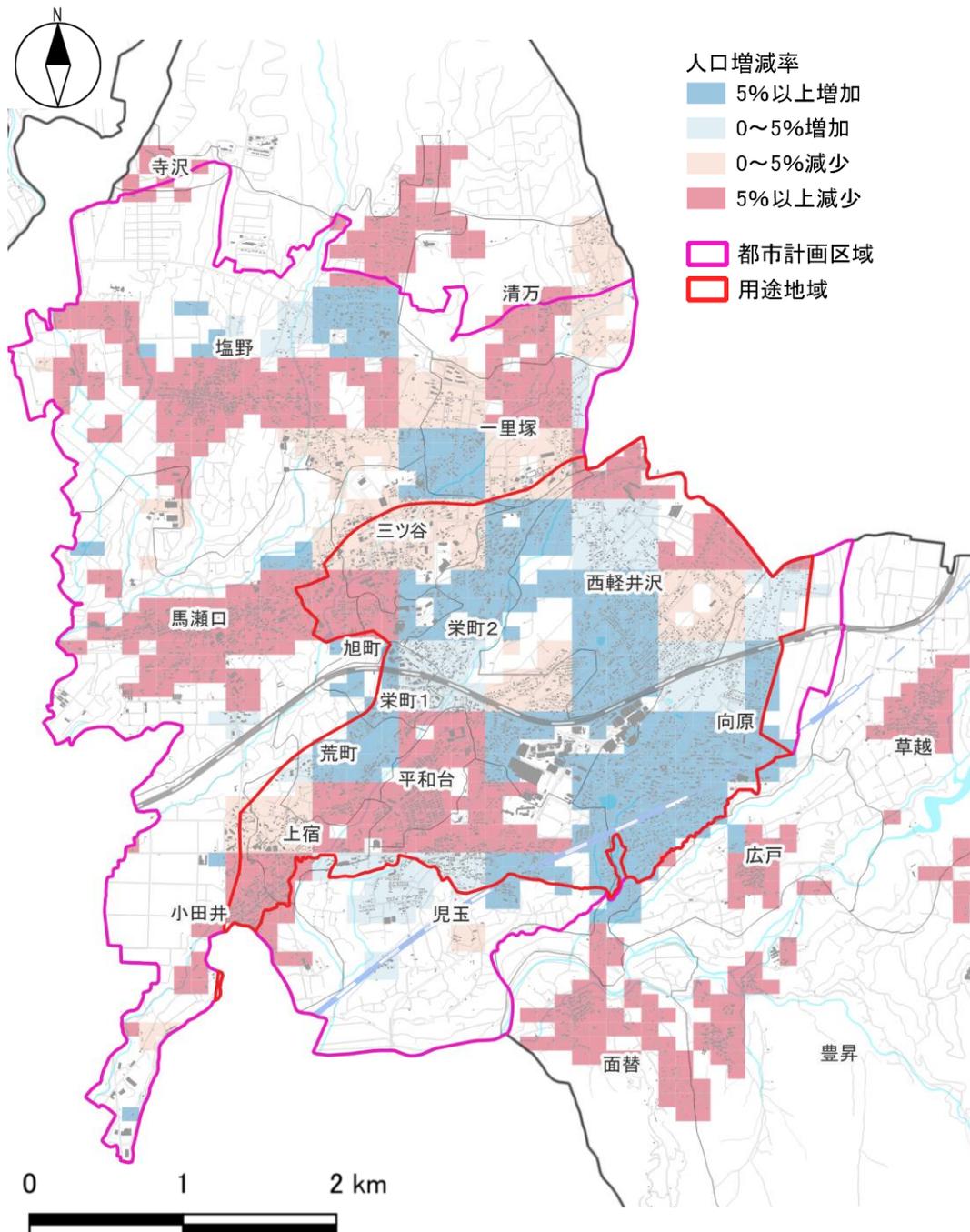
出典：国立社会保障・人口問題研究所

図 地区別人口増減率※（2020年→2040年）

※2015（H27）年の国勢調査を基にした推計値

② 100mメッシュの将来人口増減率

前項の人口増減の予測を100mメッシュ単位で見ると、御代田地区のなかでも、増加が顕著な部分と減少が顕著な部分があり、小沼地区にも塩野区、一里塚区、三ツ谷区など人口の増加が予測されている部分があります。伍賀地区は広戸区の一部を除きほとんどが減少予測となっています。



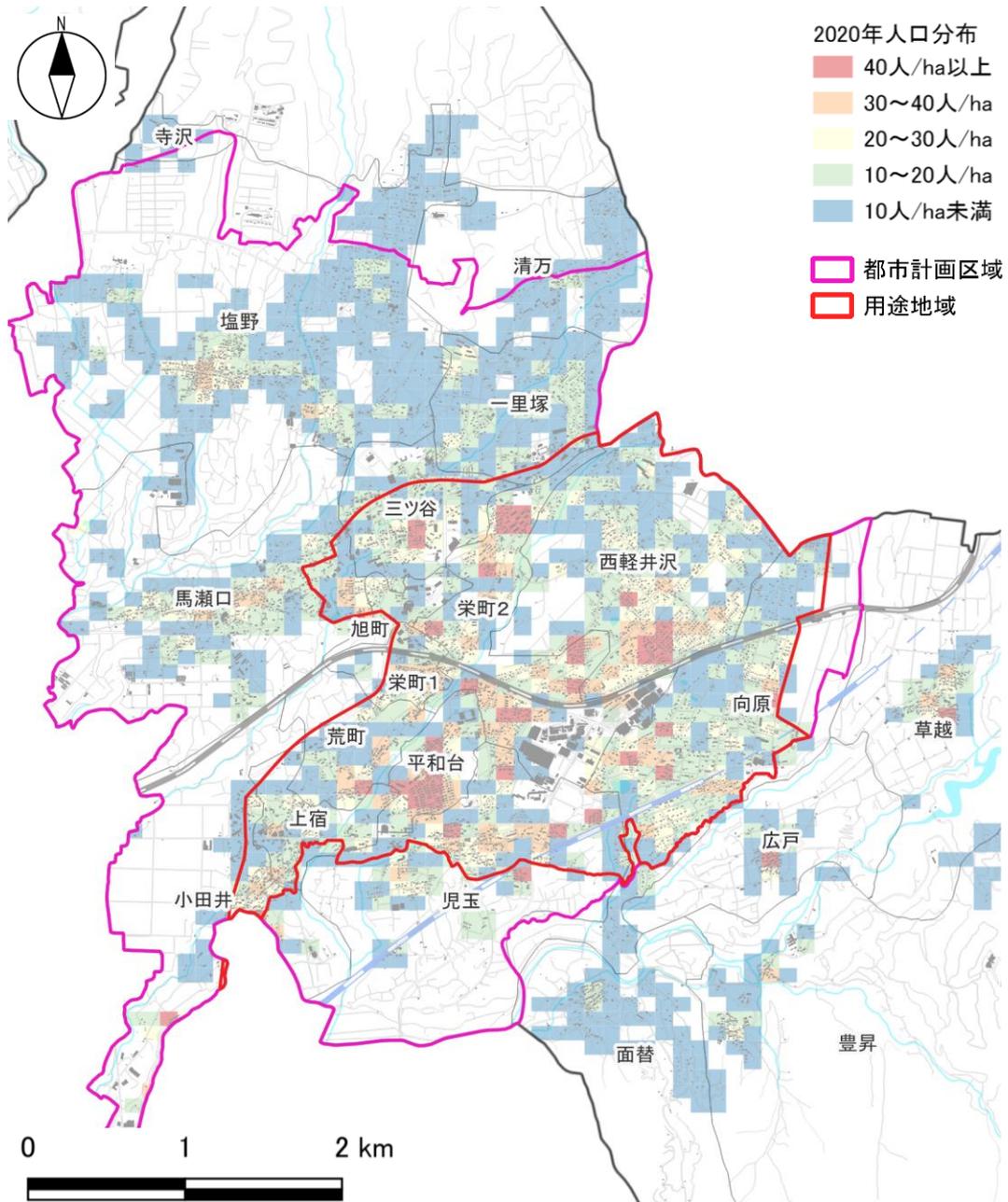
出典：国立社会保障・人口問題研究所

図 100mメッシュの人口増減率※（2020年→2040年）

※2015（H27）年の国勢調査を基にした推計値で、500mメッシュデータを建物面積で按分して算出した。

③ 100mメッシュの人口密度

現在の人口密度を100mメッシュ単位で見ると、御代田地区の中心部付近に人口集中している部分が多くありますが、小沼地区、伍賀地区にも人口が集中している部分が見られます。



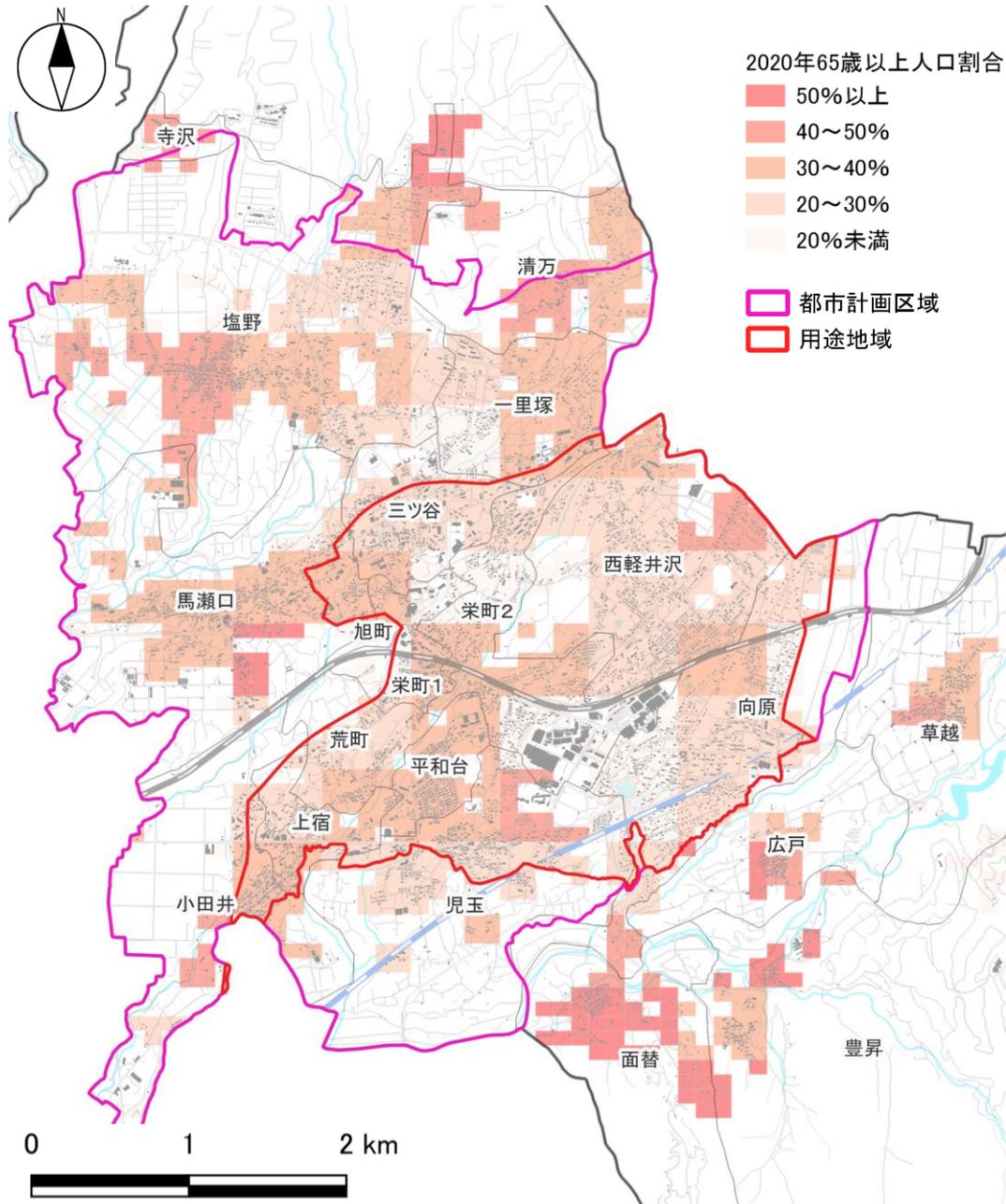
出典：国立社会保障・人口問題研究所

図 100mメッシュの人口密度※（2020年）

※2015（H27）年の国勢調査を基にした推計値で、500mメッシュデータを建物面積で按分して算出した。

④ 100mメッシュ人口密度（65歳以上）

高齢者の割合が高い部分は伍賀地区に顕著に多く、特に面替区、豊昇区、広戸区に集中していることがわかります。また、小沼地区でも塩野区、寺沢区、清万区などを中心に高齢者の割合が高い部分がみられます。町全体として、中心部から離れた場所に高齢者の割合が高い部分が点在しています。



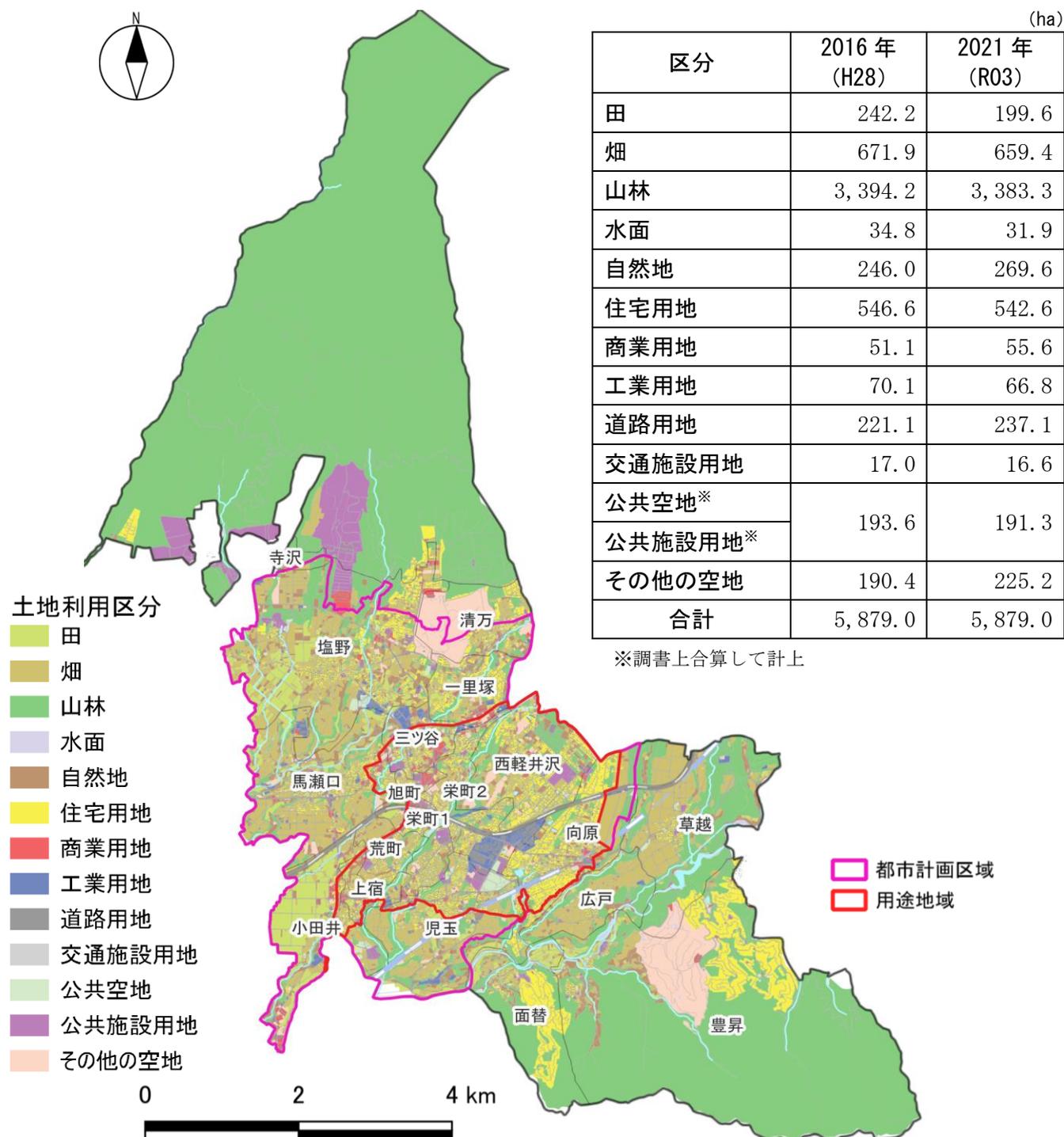
出典：国立社会保障・人口問題研究所

図 65歳以上の100mメッシュの人口密度（2020年）

※2015（H27）年の国勢調査を基にした推計値で、500mメッシュデータを建物面積で按分して算出した。

(5) 土地利用

令和3年(2021年)における、当町の土地利用区分は、住宅用地や道路用地などの都市的土地利用が約23%、山林や農地などの自然的土地利用が約77.3%となっています。内訳をみると、最も多いものは山林であり全体の約58%と半数以上を占めています。農地(田と畑の合計)は約15%、住宅用地は約9%となっております。平成28年(2016年)と比較すると、自然地、商業用地、道路用地、その他の空地は増加していますが、その他の地目は減少しています。



図・表 土地利用現況(2021年)

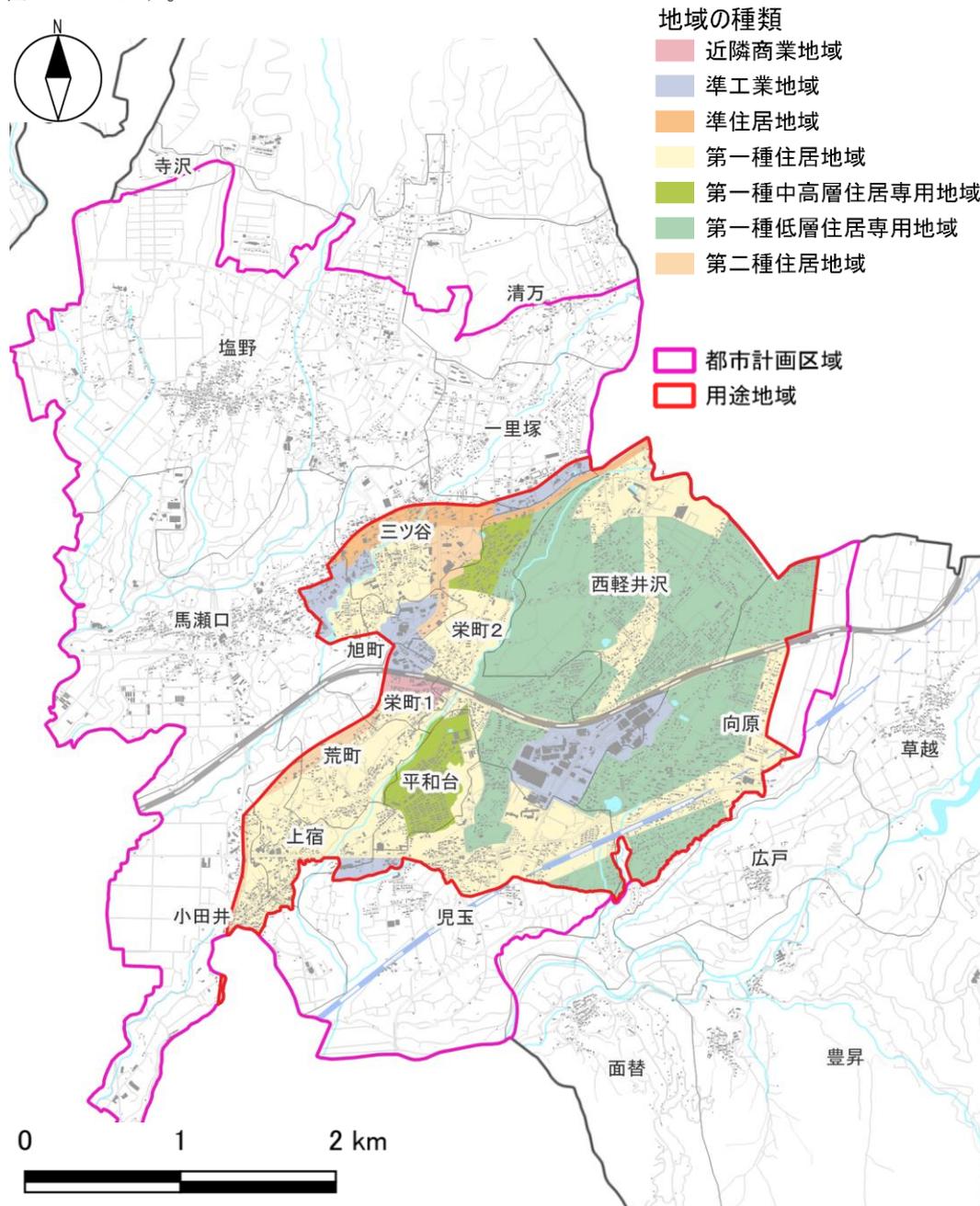
出典: 佐久都市計画基礎調査

(6) 関連法規制

① 都市地域

佐久都市計画区域は、昭和 26 年（1951 年）に当初決定されたもので、佐久市の一部及び当町の一部から構成されています。全体の面積は 20,883ha となっており、当町では行政区域の 5,879ha のうち 1,933ha が該当します。

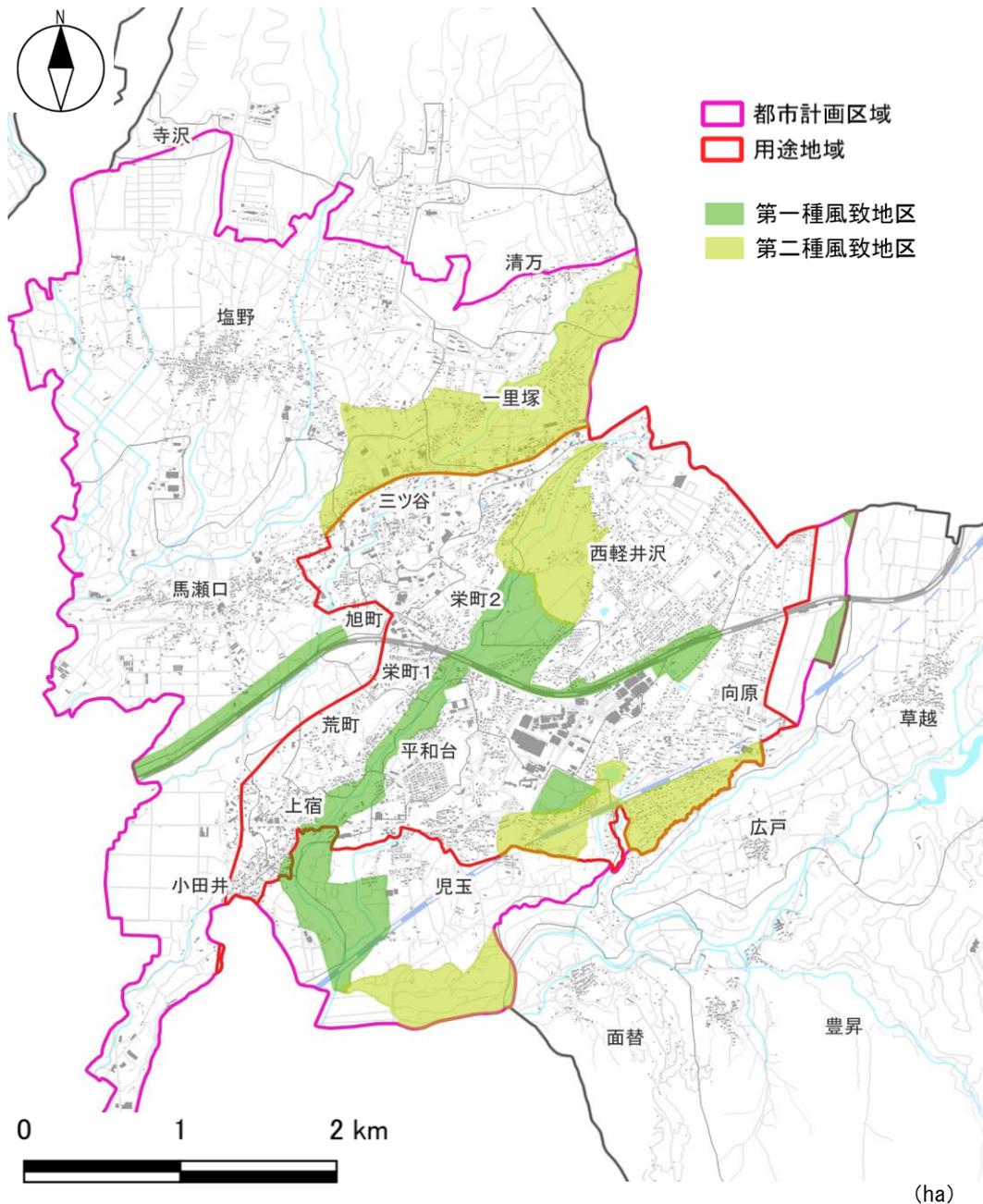
用途地域は直近では平成 27 年（2015 年）の変更を経て、約 704ha が指定されています。7 種類の用途がそれぞれ指定されており、第一種住居地域及び第一種低層住宅専用地域がその大半を占めています。



出典：佐久都市計画基礎調査

図 都市地域

風致地区は、緑豊かな生活環境が形成されることを目指し、都市の風致（自然景観等）を維持するために定める地区であり、当町では4地区、368.4haが昭和47年（1972年）に指定を受けています。



風致地区名	第1種 ^{※1}	第2種 ^{※2}	計
久保沢風致地区	103.9	73.0	176.9
一里塚風致地区	—	116.2	116.2
雪窓風致地区	19.0	40.5	59.5
十二の森風致地区	15.8	—	15.8
計	138.7	229.7	368.4

出典：国土数値情報

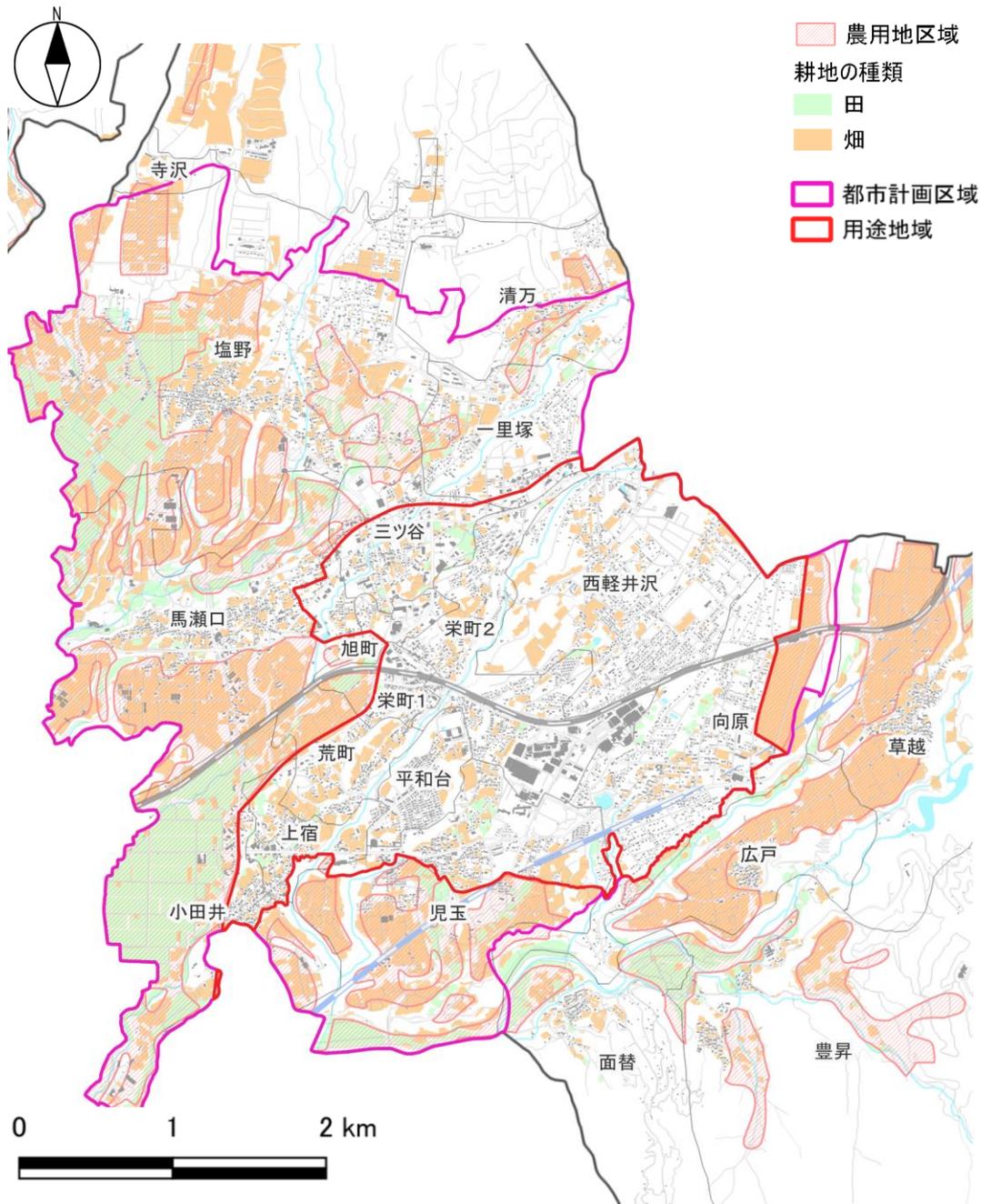
図・表 風致地区

※1 第1種風致地区：自然的景観の特に優れた樹林地、水辺地等の地区で、現存の風致を維持することが必要なもの

※2 第2種風致地区：自然的景観の優れた樹林地、水辺地等の地区又はこれらと一体となった住宅地等の地区で、現存の風致を維持すること

② 農業地域

都市計画区域内のうち、用途地域や森林地域、馬瀬口区、塩野区の主な居住エリアを除く範囲が農業振興地域に指定されています。水田にあまり適していない地質でもあることから、畑の割合が多くみられ、田は農地全体の約23%となっています。農地の主な利用としては、町の特産であるレタスなどの高原野菜が多く生産されています。



出典：国土数値情報

図 農業地域